



嘉永六年七月朔日

阿波守松平定房

浦元... 萬國全圖序... 夫圖者取其易辨也... 萬國之圖所行于世者非不精也... 雖然披而閱之則茫然若耳... 故令地畧顏色以表明之... 是以區分域別五色盼然... 凡圖之廣一見則能辨焉... 余繼本中之學於祖翁... 而考究藥物其關涉于異域者多矣... 故徇及地理之學... 以梓之而復搜索云... 天保戊戌之書

萬國全圖序

巴莽園主人識

夫圖者取其易辨也。萬國之圖所行于世者非不精也。雖然披而閱之則茫然若耳。故令地畧顏色以表明之。是以區分域別五色盼然。凡圖之廣一見則能辨焉。余繼本中之學於祖翁。而考究藥物其關涉于異域者多矣。故徇及地理之學。以梓之而復搜索云。天保戊戌之書

本日以

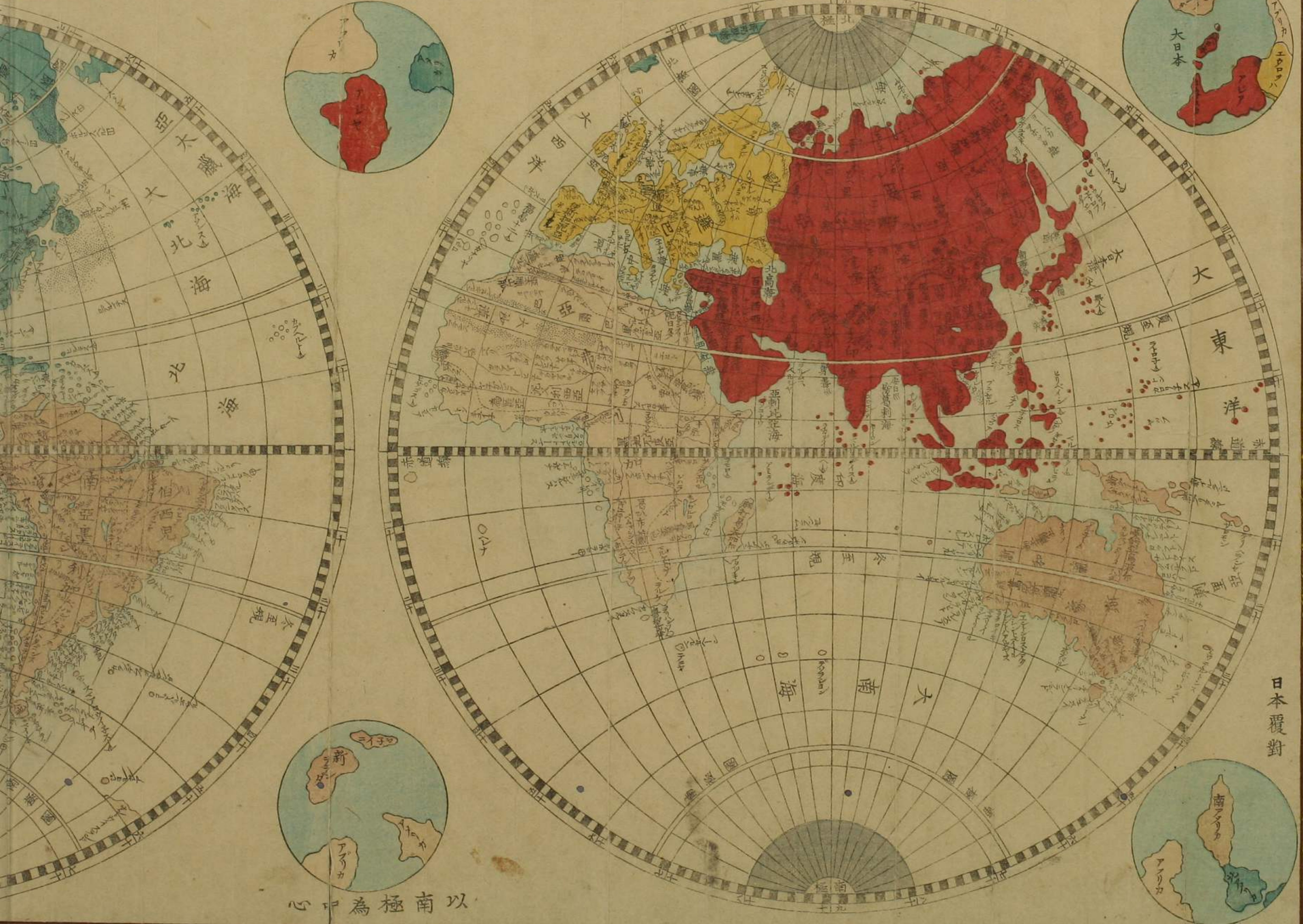


日本覆對

東 半 球

以日本京都為中心

以北極為中心



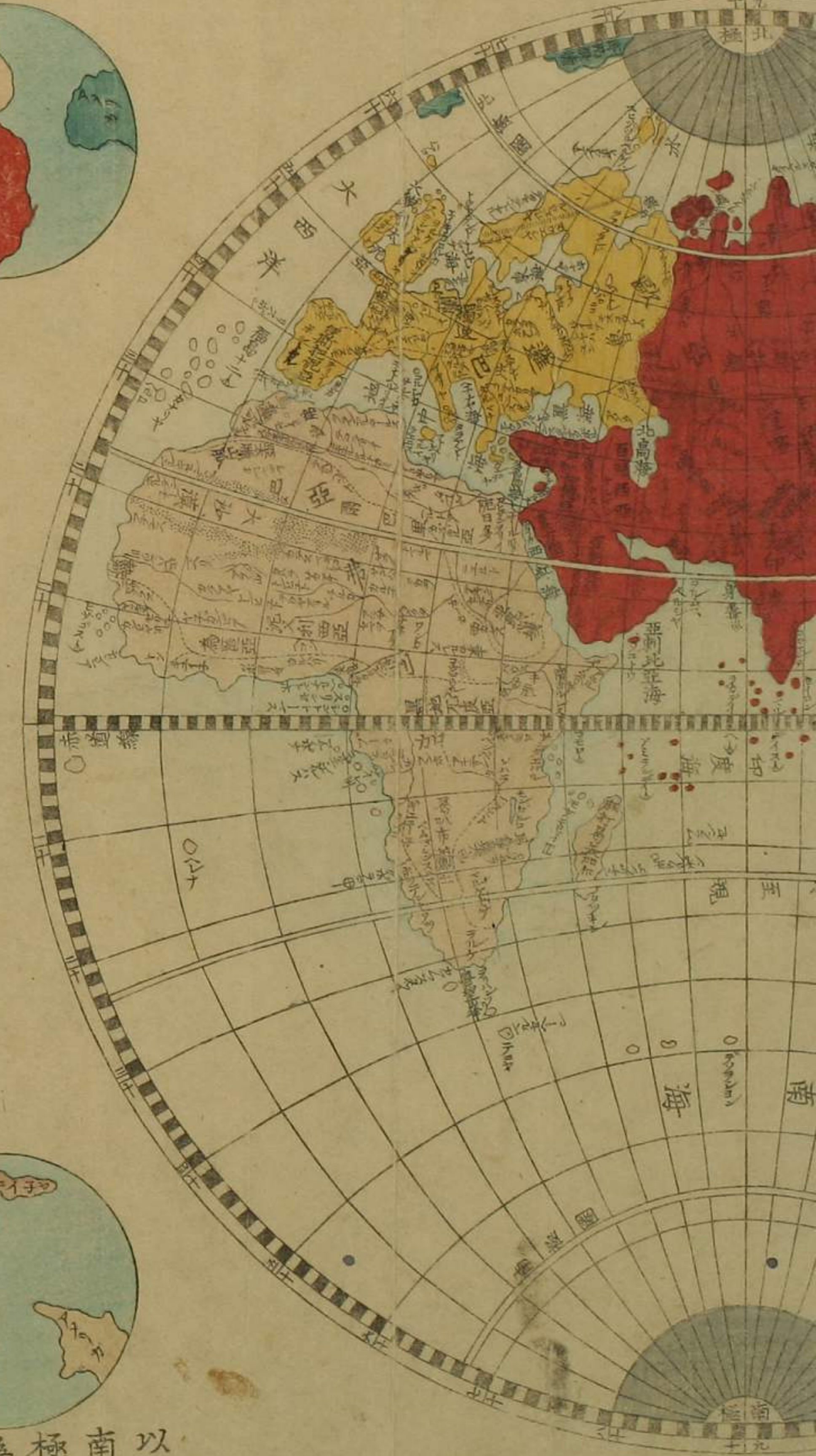
以南極為中心

日本覆對

萬國全圖序
 夫圖者取其易辨也。萬國之圖所行于世者非不精也。雖然技而闕出則汪洋向若耳。故合地粵顏色以表明之。是以區分域別五色盼斐。已固之廣一見則能辨焉。余繼本中之學於祖翁而考究藥物其關涉于異域者多矣。故徇及地理之學以梓之而復搜索云。天保戊戌之書。董齋正書。

南半球

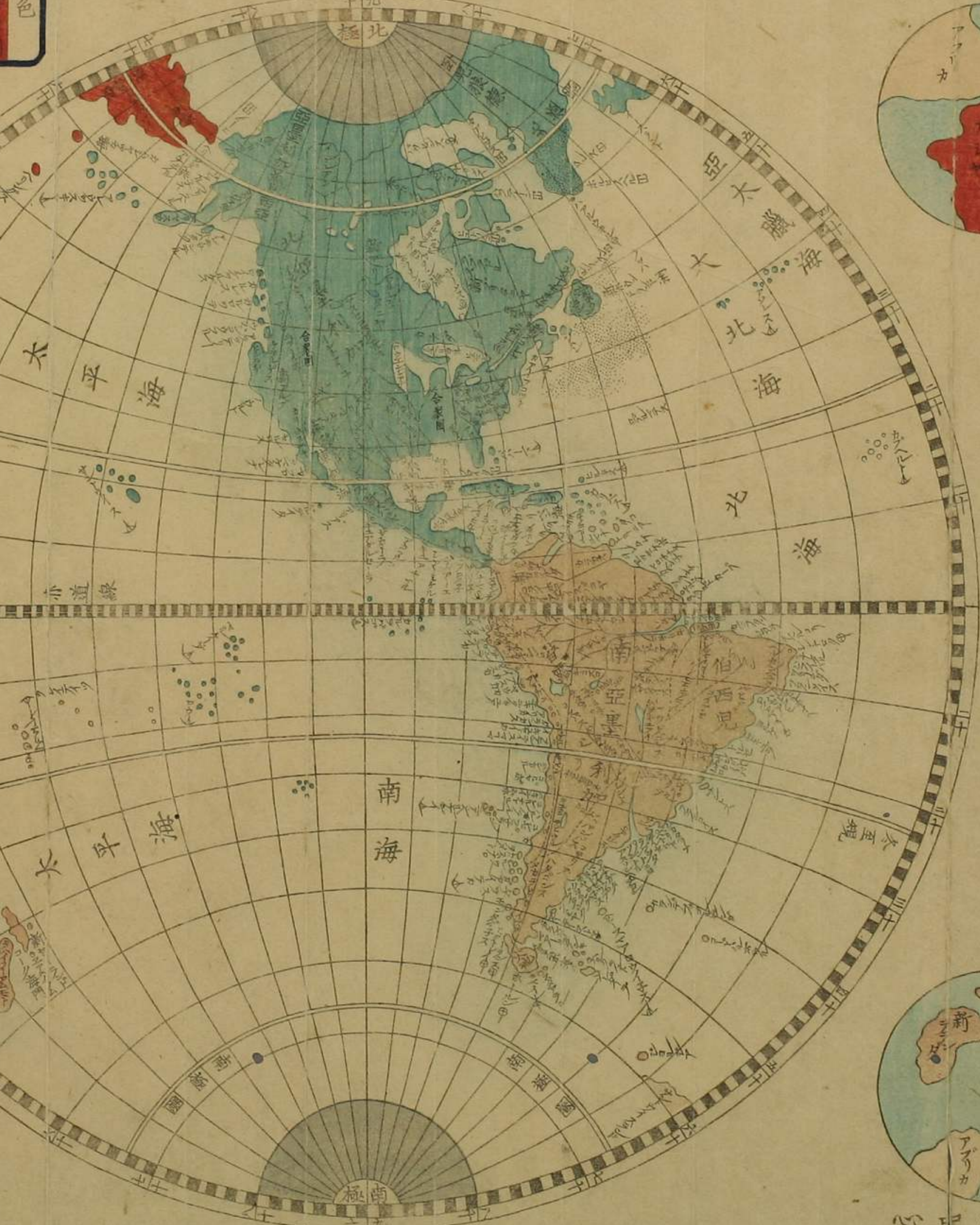
以 北極為中心



以 南極為中心

西半球

黄色	歐洲巴洲
淡紅	亞非利加洲
青色	北亞利加洲
紫色	南亞利加洲
老虎	臺灣島
淡碧	海
青黑	校園界



地界彩色

○この圖ハ我天保六年被二百十五小佛蘭西人の鏤刻りたるあり。但る其圖製れど其様略其字畫細小ゆゑ模寫する便あり。予が往年より所蔵せる一圖と校訂して縮寫する。展視認佩携する便あり。亦各所産記号を以て記しりあり。かつ夷家の語をたてし。梓小書して同志の筆勞を助く。

○凡地球の地三分二は水。七分一は陸。高峻なる所を山嶽とす。平坦なる所を平地とす。田園とす。低凹なる所を池沼とす。溪流とす。これ地形の勢。獨り平地より山嶽河漢あり。陸地の水は山嶽の中より又自然なる山嶽より。溪流あり。海海の者。陸地の下より。礫あり。破の切崩あり。泥は

圖及説 栗原信梟 再校

○この圖ハ我天保六年彼一千五百三十五年佛蘭西人の鏤刻ルイ・ジャコブ・ベネチより傳へられたる。但る其圖製此と異様也其字畫細小ゆゑ模寫したる便あり。予が往年より所蔵せし圖と校訂して縮寫し之を展視認佩携持し便あり。亦各所傳記号並に之を記しり。凡の更家の語を悉く採りて同志の筆勞を助く

○凡地球を以て地二分は在り。水七分ふ在り。高峻なる所を山嶽とす。平夷なる所を城市とす。田園とす。低凹を池沼とす。溪河とす。此れ地形の勢にて。獨り平地より山嶽河溪なる所をふあは。海水の中にも又自山嶽より溪河あり。海海の若くは下なる。深きあり。破の如くはあり。泥はあり。砂はあり。又急な深き所あり。淺き地あり。實に平地よりも些少も異なりありとす。

○周圍を以て二百六十度とす。一度は本邦の二十八里餘ふとす。經緯の度を以て画した。其の長短は南北の緯度の比に差ありといふ。其の緯の殊なる事あり。其廣狹は東西の經度の比に差あり。東西の經度の別地を隨つ同くかくは。此圖をアフリカ洲の鉄島とを以て第一度とす

太陽は常に地球を中心として一日一度を行くと雖も。宗動天にて量したる。一度百八十度と隔る國も。本邦と相及ぶ故也。本邦の正午の時の國の夜半ありと知るべし。南アフリカ洲の舊布本邦と足踏は云い。地球の中心を東西に引線すと。赤道といふ。北二十一度半距る線を夏至線といひ。又南二十一度半距る線を冬至線といふ。這の夏至線より冬至線の間。四十七度の内を太陽は常に往來する所あり

○全地球を以て分けて五帶といふ。暖帯といひ。正帯といひ。寒帯といひ。赤道線より。南北各二十一度半とす。暖帯といふ。其國太陽の頂上を以て氣候は常に安熱なり。一時候あり冬至線より南極圏より。夏至線より北極圏より。各四十二度とす。正帯といふ。晝夜長短の差は有り。春分秋分月の以て平均なり。氣候四時あり。寒暑俱く適宜なり。萬有は人畜は繁育の地なり。北極圏より北極直下より。南極圏より南極直下に至るを。寒帯といふ。日輪の光線及び斜にして。日れはより早く没し。氣候極めて寒なり。夜長にして晝短く。北極下の地は春分より秋分まで半年の間。晝をわたり。太陽常に地平上を周り。天に玉母珠の如く。又秋分より春分まで。太陽常に地平上を有て。其光を以て晝を夜國界と云ふ。南北の同帶の地も。各の領域を異ふと雖も。氣候は同一。但し。如き所を夏あるは。此地はよりあり

○本邦より一度百八十度と隔る國の日中。本邦の夜半なり。す。本邦の日中。其の夜半なりとあるべし

○此圖編少しく蕃國諸地名は。清人の譯字を以て。書を依りての傳字を以て。使ふ所は。世を以て。故に其の大略は。此の如し

- 亞細亞洲 シアシア 大日本 漢土カラ 韃而 鞞 奴兒罕 蒙古
- 意貌山 ベリグス 止白利 シリ 喀而喀 カラス 加模沙 都加カシヤ 以兒格 都加ツカ
- 北波兒斯科 ストボル 佛加里 百爾西亞 如德亞 安日川 榜葛刺 勃蘭
- 印度又身毒 ヤシネテ 亞刺比亞 烏斯白 祈 葛密兒 白哈兒 呂宋
- 東蒲寨 魯細亞 北高海 冰海 都兒格 東大洋
- 歐邏巴洲 伊西把泥亞 佛蘭西 獨逸 英咭喇
- 意太里亞 勿擲茶 和蘭地 入爾馬泥亞 波兒杜瓦爾
- 蘇亦齊亞 第那瑪 翁加里亞 大勃利太泥亞
- 厄勒祭亞 福島 大西洋
- 亞弗利加洲 巴尔巴里亞 泥又利西亞 爲匿亞 曷布蘭土
- 亞昆心域 黑地兀皮亞 馬拿莫太巴 麻打加矢葛爾 喜望峰
- 北亞墨利加洲 南 渚 北渚 臥兒狼德
- 南亞墨利加洲 伯西兒 白露
- 豪斯多刺里亞洲 新和蘭陀 物士蘭土 勿太域 映的亞烏波

形の勢より獨り平地より山嶽河溪あるを少くあらず。海水の中より又自然山嶽あり。溪河あり。海海の者夜半を下りては。礫ありて破の如き處あり。泥あり。砂あり。又急な深き所あり。浅き處あり。實に平地より少くも異なりありと。

○周圍を三百六十度と一度の本邦の二十八里餘ふると初より。經緯の度を画し。其の長短を南北の緯度比的の差ありといふも。其度の殊なる事あり。其廣狭の差あり。則地は隨つて同くわたり。此圖をアリカ州の鉄島を以て第一度とす。

太陽は常に地球を中心として一日一度を行くと雖も。宗動天の一日一度の晝夜は。一周をなす小依りて。一日二周をなす如し。其の太陽を以て量する。経度百八十度と隔る國も。本邦と相違なき故也。本邦の正午の晝の夜の長さありと初より。南アフリカ州の葛布本邦と足踏の云。地球の中心を東西に引線は。赤道といふ。又北二十度半距る線と夏至線といふ。又南二十度半距る線と冬至線といふ。道の夏至線より冬至線の間。四十七度の内を。太陽は常に往來する如し。

○全地球を分けて五帯といふ。暖帯といひ。正帯といひ。寒帯といひ。赤道線より。南北各緯二十度半を。暖帯といふ。其國太陽の頂上を。晝氣候は常に炎熱なり。八時候あり。冬至線より南極圏より。夏至線より北極圏より。各四十七度半を。正帯といふ。晝夜長短の差は。有り。春分。秋分。月の終平均の。氣候四時あり。寒暑俱し。適宜なり。萬有諸人畜の繁育の地あり。北極圏より北極直下より。南極圏より南極直下に至る。寒帯といふ。日輪の光線及ぶと斜にして。日れは。より早く没し。氣候極めて寒なり。夜長にして晝短く。北極下の地は春分より秋分より半年の間。晝夜均なり。太陽常に地平上を周り。大に玉母珠の如し。又秋分より春分より。太陽常に地下に有て。其光を。晝を夜國界と云。夏あり。此地は。寒なり。

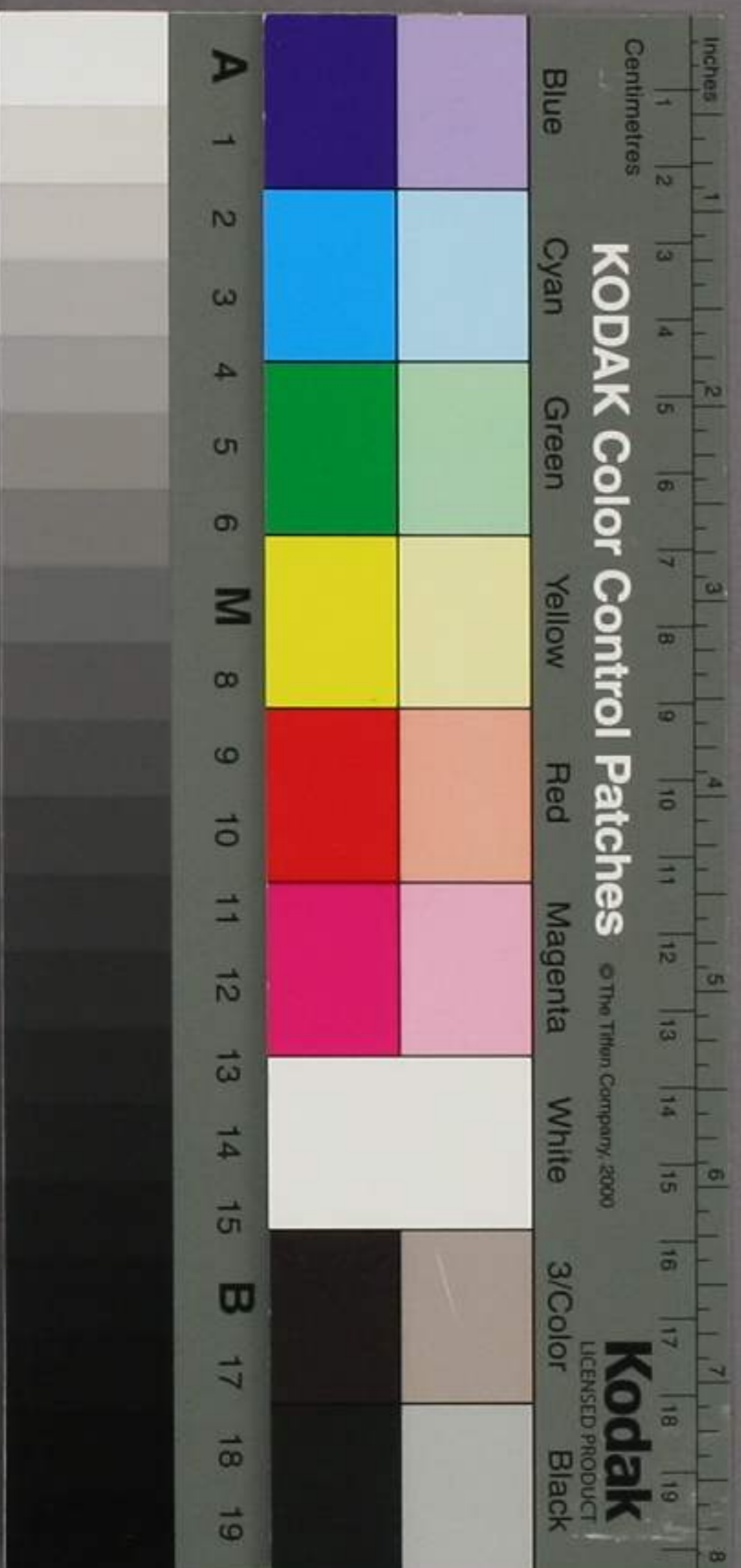
○本邦より経度百八十度を距る國の日の中の本邦の夜半なり。本邦の日の中の本邦の夜半なりとある。○此圖は。少くも。蕃國地名の譯字を以て。晝を夜りの傍字を以て。晝を夜り。故に。大略。此の如し。

○亞細亞洲。大日本。漢土。韃而。韃而。韃而。奴兒罕。蒙古。意貌山。止白利。喀而喀。加橫沙都。加。以兒格都。加。北波兒斯科。佛加里。百爾西亞。如德亞。安日川。榜葛刺。印度又身毒。亞刺比亞。烏斯白祈。葛密兒。白哈兒。呂宋。東蒲寨。魯細亞。北高海。冰海。都兒格。東大洋。歐邏巴洲。伊西把泥亞。佛蘭西。獨逸。啖咭喇。意太里亞。勿擲茶。和蘭地。入爾馬泥亞。波兒杜瓦爾。蕪亦齊亞。第那瑪。加。翁加里亞。大貌利太泥亞。厄勒祭亞。福島。大西洋。

○亞弗利加洲。巴尔巴里亞。泥又利西亞。爲匿亞。馬以布蘭土。亞昆心域。黑地兀皮亞。馬拿莫太巴。麻打加。矢葛爾。喜望峰。北亞墨利加洲。南。渚。北渚。南亞墨利加洲。伯西兒。白露。豪斯多刺里亞洲。新和蘭陀。物土蘭土。勿太域。映的亞烏波。底篤兒斯蘭土。

○圖中小記号語を以てを依りのあり。小解。田都府。國界。河。海。峽。大山連綿。島。港。砂。漠。暗。礁。海中洲。

天保九年戊之春月 檨齊阿部喜任誌
河田十二右左衛門尉



8 7 6 5 4 3 2 1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100